

# イノベーションの歴史

## 良い商品の供給やものづくりに果敢に挑戦し、文化の進歩向上に貢献

小型抵抗器の専門メーカーとして創業したロームは、企業目的に基づき、文化の進歩向上に貢献しながら事業領域を拡大してきました。今後も、これまで培ってきた強みを生かし、エレクトロニクスの技術でさまざまな課題を解決することで、未来に向けて、人々の豊かな暮らしと、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 1950年代

#### 民生機器メーカーの需要拡大

- ・トランジスタラジオ
- ・カラーTV



#### ▶ ラジオの部品づくりへの挑戦：日本初の小型抵抗器の開発

ラジオ修理のアルバイトをしていた創業者の佐藤研一郎が、「修理だけではつまらない、自分でも何かつくってみたい」と考え、当時の真空管ラジオに欠かせない部品である抵抗器の開発に着手。1954年に日本初の小型抵抗器「平行リード型固定抵抗器」の実用新案を取得し、大学卒業と同時に東洋電具製作所を創業。トランジスタラジオのブームとともに売り上げを伸ばし、抵抗器の国内シェア60%を達成。

- 1954 東洋電具製作所創業  
小型抵抗器の実用新案取得
- 1958 株式会社 東洋電具製作所設立

#### 売上高・営業利益の推移



1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 (年度)

### 1960～1970年代

#### 世界的なIC需要の高まり

- ・ポータブルカセットオーディオ
- ・VTR
- ・CDプレーヤー



#### ▶ IC暴風に立ち向かう：半導体への挑戦

抵抗器が最盛期を迎え、まだ「IC」という言葉を知る人も少なかった1964年、ICについての講演会で当時の技術担当責任者は「ICは今後、抵抗器に取って代わるかもしれない」という言葉を聞く。危機を感じた佐藤は抵抗器事業も続けつつ、「IC」という新たな分野へのチャレンジを決意。そして1967年、ローム初の半導体商品が完成。1971年には本格的なIC開発のため、日本企業として初めてシリコンバレーに進出。

- 1967 トランジスタ、スイッチングダイオードの開発・販売を開始
- 1969 ICの開発を開始
- 1979 商標をR.ohm(アール・オーム)からROHM(ローム)に変更

### 1980～1990年代

#### 社会的なデジタル化の推進

- ・デジタルカメラ
- ・パソコン
- ・DVD
- ・携帯電話



#### ▶ 「カスタムICのローム」としてデジタル機器の技術革新に貢献

当時は大手電機メーカーが社内に半導体事業部を持つ場合が多く、ロームは唯一ともいえる独立系半導体企業。さまざまなメーカーから寄せられる最新ニーズに迅速かつ確実に対応するとともに、ニーズの一步先をゆく商品を開発する提案型のビジネスを強みとした。セミカスタムからフルカスタムまで取りそろえ、幅広い市場のニーズに対応できるラインアップと仕組みを構築することで、「カスタムICのローム」として大きく飛躍。

- 1981 ローム株式会社に社名変更
- 1982 デジタルトランジスタの開発・販売を開始
- 1985 マイコン、ゲートアレイ、VTRデジタルサーボの商品化
- 1989 東京証券取引所市場第一部に上場

### 2000年代

#### エレクトロニクス市場のグローバル化

- ・液晶テレビ
- ・カーナビゲーション



#### ▶ 研究開発の拡大、M&Aの積極化

ITバブルの崩壊を境に日本経済が一変。日系民生機器市場を中心に成長を遂げていたロームにとっても苦難の時代に。社会情勢も大きく変化するなか、研究開発テーマの拡大や産学連携、M&Aのほか、事業ポートフォリオの転換に取り組む。中心となったのが自動車市場への本格参入。民生技術を生かしたカーオーディオ向け商品など、自動車向け商品ラインアップが徐々に拡大。海外市場にも注力し、世界を見据えた商品開発やグローバルでの拡販体制も強化。

- 2008 OKIセミコンダクタ(株)(現:ラピセミコンダクタ(株))を子会社化
- 2009 SiCウエハ製造のドイツSiCrystal社を子会社化

### 2010年代

#### 省エネ化・電動化のニーズの高まり

- ・スマートフォン
- ・タブレットPC
- ・ハイブリッドカー



#### ▶ ポートフォリオの変革：自動車・産業機器市場向けの開発強化

自動車や産業機器市場へのシフトを加速。パワーデバイスにも本格参入し、2010年には世界で初めてSiC MOSFET\*の量産に成功。アナログICやディスクリートも自動車向けの品質を満たせるようにするため、開発から製造まであらゆるプロセスを見直し、自動車向け商品ラインアップも拡大。採用商品もカーナビなどインフォテインメント系を皮切りに、ミラー制御などのボディ系やパワートレインなど駆動系にまで広がる。

- 2010 SiCパワーデバイスの量産・販売を開始
- 2012 絶縁ゲートドライバICの開発・量産を開始
- 2013 シェント抵抗器の開発・量産を開始
- 2015 世界初、トレンチ構造採用のSiC-MOSFETを開発・量産

### 2020年～

#### 脱炭素・循環型社会への潮流

- ・電動車(xEV)
- ・充電ステーション

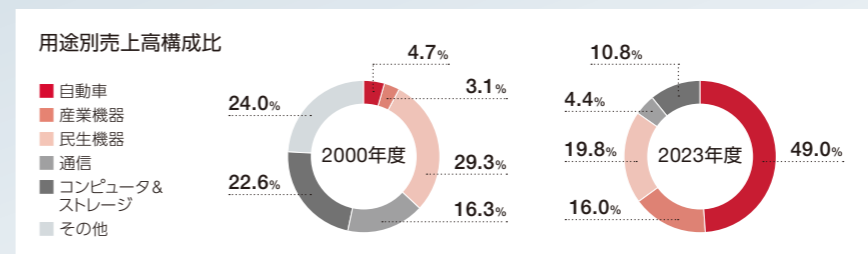


#### ▶ 省エネ・小型化に寄与する商品で環境負荷低減に貢献

脱炭素社会の実現が喫緊の社会課題となるなか、世界各国がガソリン車からxEVへの移行を推進。省エネのキーデバイスとして、半導体の重要性が増し、社会や顧客からの期待も大きくなるなか、経営ビジョンに基づき、パワー・アナログ半導体の開発に注力。SiCを中心にパワーデバイスの開発、量産体制を拡充するとともに、デバイス性能を最大限に引き出す絶縁ゲートドライバICなど周辺部品を含めたパワーソリューションの提供を加速。

- 2020 業界トップの低オン抵抗を実現した第4世代SiC MOSFETを開発
- 2021 中期経営計画「MOVING FORWARD to 2025」を策定
- 2022 東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行

\*は用語集に掲載



2023年度  
売上高  
4,677億円

(億円)



2023年度  
営業利益  
433億円